

袖ヶ浦市郷土博物館友の会・会報

友の会だより 第53号

発行 友の会事務局

袖ヶ浦市下新田 1133 番地

郷土博物館友の会

TEL:0438-63-0811

FAX:0438-63-3693

発行日:令和5年 6 月 1 日

R5年度・郷土博物館友の会
総会開催・4月23日(日)

R5年度の総会は4月23日(日)13時より根形公民館視聴覚室で開催されました。事務局では、本年も昨年同様、コロナ感染防止に留意して会場準備しました。

総会は、委任状を含めて、46名の出席で開催。各グループ(G)代表からR4年度のG活動報告があり、会計担当からは決算報告、監査担当より、監査報告がありその後R

5年度の各G事業計画、年度予算も報告され、審議の結果、何れの議案も満場一致で承認可決されました。今年度は、役員改選期で中西会長が引き続き2期目も選任されました。役員体制は次の通りです。また記念講演として、第167回袖ヶ浦学が開催されました。内容は、4面に記載ご参照して下さい。

友の会会長(2期目)

『友の会みんなで盛り上げよう!』

中西明美 記

もう一期会長を務める事になりました。事務局共々よろしく願います。

コロナもやっと落ち着き日常生活が戻りつつあります。それに今年は、新しいグループ(G)『植物画葉月の会』が加入となり、8Gでお互い刺激となり、更に発展できればと願っております。

この3年間コロナに負けずそれぞれG活動を続け、研鑽を積んできた事は、今後の活動の力となることでしょう。

また『もつとしりたい講座』も好評で、今年も興味を持ち楽しめるものにしたかと思っております。これからも皆様の『友の会』です。全員で盛り上げましょう。

R5年度友の会
役員の皆様

- 会長 中西明美(いろは)
- 副 矢野佳次(風の会)
- 副 西原崇浩(博物館長)
- 理事 矢野佳次(土器)
- 蜂須賀健二(風の会)
- 渡辺しず子(有会)
- 吉田保雄(仏像)
- 今井久明(いろは)
- 石井英美(機織り)
- 中村康司(盆栽)
- 高橋紀子(葉月)
- 監事 武田 弘(風の会)
- 田村 静子(有会)
- 事務局多田信子(事務)
- 篠原美智代(会計)
- 今井久明(編集長)
- 庶務 水流拓馬(副主査)
- (記号●印新任・○印留任)



R5年度 総会風景(根形公民館にて)

ミュージアムフェスティバル

6月10日(土) AM10:00~15:00

6月11日(日)

袖ヶ浦市郷土博物館(袖ヶ浦公園内)

今年は「愛と平和と博物館」をテーマに2日間開催します。

第26回ミュージアム・フェスティバル開催

日時 R5年6月10日(土) 11日(日)

友の会 第8番目の会 誕生!
『植物画 葉月の会』
代表 高橋 紀子氏 会員6名

友の会に第8番目の会が誕生しました。『植物画 葉月の会』です。現在会員6名で出発です。今後の発展に大いに期待します。同会では、年に1回『ソデフローラ』なる展示会が企画されております。

「**会員三二風作以
研修実施**」

①の紙の裁断では、型枠をあてがいズレのない様に刃物にて裁断する。②は手作りの竹製のコンパスに筆を取り付け最適な太さで適切な位置に弧を描く。③は絵の輪郭をマジックで下絵を下に敷き上からなぞる。④のヒゴの取付は竹ひこの両側に多くの和のりを付け

(代表 蜂須賀健二 記)

仏像を学ぶ会
 『市内のお寺で
 仏像鑑賞』

今回は横田の『阿弥堂』を紹介します。開かれた田園地帯の一角に寺が在り、本尊の『銅像阿弥陀如来坐像』は、伽藍の須弥壇の奥に秘仏として置かれており、住職の特

(会員) 平野たみ子 記

なんでも有り会
『今年は、自然
観察会を中心に』

今年度も『野の花、鳥、樹木』に親しむ活動を計画しております。

(会員 檜田ぎん 記)

植物画の描き方を瀧良子先生のご指導の下学んできました。作品を仕上げる時には、教えて頂いた事をうまく生かして植物の細かい部分まで表

これからも個々の作品に
対する取り組みを続け、植物
画の良さを更に深く知って
いけたらと思う、友の会での
植物画『葉月の会』を盛り立
てて行けたらと思います。

（会員 加藤みどり 記）

G 所属 60 名 + 無所属 10 名 - 重複所属 6 名 = 64 名 (R5 年 5 月現在)

古文書いろはの会 『芭蕉・三日月日記』 を読んで

本年1月以降、博物館所蔵の地元の古文書を何点か抽出して、その写しを頂き読み始めました。

其中に芭蕉の『三日月日記』なるものがあり、先年奥の細道を読んだことから、是も何かの縁と思い取り上げた。勿論、日記には、芭蕉門下の有名な俳人の句が多く載っており、その中で、

友の会だより(P3)

『三つまたや富士にしずみて暮れの月 北鯿』なる句に出くわした。其の折の時節柄『みつまた』を植物のそれと勘違いし、植物談議で時間となった。

日記の解説書がなく、句の鑑賞はあと廻しにして、本文を読み進めた所、『富士に對して柴門(さいもん)景を追うてななめなり。浙江の潮三つまたの淀にたたえて月を見る・』なる文が出てきた。『三つまたの淀』、まてよ、どこかで似た感じの文を読んだことがと、ハタと思い出した事があった。

令和5年6月1日

昨年夏、房総の寺社縁起の中で『成田詣文章』の中に似たような文章があった筈だ

と見返してみると、『是より直に船を催し箱崎水派(みつまた)に出れば秋は月の名所津々浦々・』なる文章があった。そうか、『みつまた』は、『箱崎みつまた』だと、再度調べてみると、江戸時代当時、隅田川、小名木川、箱崎川の三川が合流した所が、川の三叉路である所から『三派(みつまた)』と呼ばれ、月の名所であったという。又当時そこから富士もきれいに見えたとの事。これで見えたとの事。これで繋がった。『みつまた』は、

『箱崎三派』そして富士の遠望、まさに句の情景であり芭蕉庵の近くでもある。4月桜に誘われて都内江東区の芭蕉記念館と芭蕉庵史跡展望庭園を訪ねた。そこには、芭蕉の像が隅田川の水派(みつまた)をまじかにみていた。水上バスが通るのを見ながら、桜とともに、みつまたの花談議を思い出し、眼下の水派(みつまた)やリバーサイドの景色を見て、クスツト笑みがこぼれた。

(代表 今井久明 記)

土器作りの会

『あらたな分野にも目を向け 新入会員募集中!』

当会は、友の会発足当初に設立され間もなく40周年を迎えようと言う歴史ある会です。しかし活動が地味な事もあってあまり知られていません。会員も高齢などで古参会員が退会してしまい本年度から5名で活動しています。

主なる活動は縄文土器土偶、土版などの材料となる①粘土、土、砂(地元産)②粘土の粉碎、③三種の土、砂の調合、④練り、⑤成形、⑥磨きの行程を経て

⑦焼き(当時の野焼)で完成、作品展示で縄文時代への思いを寄せながら一年を締め括ります。

尚今後、縄文時代を中心に『*太古の時代の調査研究』『*遺跡や博物館の見学』『*勾玉作り』等新たな分野にも目をむけ、会員の皆様と共に有意義で楽しい緩やかな会にして行きたいと思っています。

皆様の入会を心待ちにしています。
(代表 矢野佳次 記)

盆栽愛好会 『春秋年2回 展示会開催』

盆栽愛好会の本年度の活動と致しましては、春秋の年2回の展示会を主とした活動となります。

開催場所は、旧進藤家住宅を会場にしております。古民家と盆栽の相性が程良くとても素晴らしい展示会となっておりますので皆様どうか足を運んで見に来て下さい。

私達盆栽愛好会は、さらに良い展示会を目指して技術向上する為に日々勉強しています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

(代表 中村康司 記)



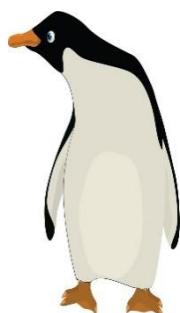
芭蕉と清澄橋 (史跡展望庭園より)

機織りの会 『新人育成』

会に新人が入りました。『祝』です。機織り初心者なので皆で指導します。大変です。

己の知識の不確かさ、教えることの拙なさを思い知らされました。新人の熱心さに支えられ作品は完成しました。皆で一つのことに取り組むのは、久しぶりでした。個人作品ばかりでなく共同作品も取り組みたい。会員の絆が益々強くなります。

(会員 今井恵子 記)



***博物館より

お知らせ***

◎企画展◎

『袖ヶ浦の外來種』

・日時

R5年10月7日(土)

12月17日(日)

・場所

袖ヶ浦市郷土博物館

第167回袖ヶ浦学開催

「城からたどる

袖ヶ浦の戦国時代」

大多喜町教育委員会 小高 春雄氏

今ご城印が注目されており特に内房沿岸は、戦国期里見水軍と北条水軍との攻防があり当地でも蔵波城、久保田城等地元の歴史を知る上で城へのアプローチは、欠かせない

そのような中での今回の講演テーマは、時宜にあった講演であった。講演で印象に残ったところは、次のとおりです。

① 戦国時代前の城は、『柵陣、館(タチ)』の類であった。

地元の横田郡では、『横田悪四郎入道』なる在地の領主がいたことが、記録上現れており、又西上総を流れる小櫃川の流域にかけて、地域の有力者として『小櫃氏』なる人物がいたという。1404年(応永10年)に『小櫃遠江入道常吉』なる人物の存在が資料により紹介された。

② この人物が、活躍した室町時代、関東を統治している鎌倉公方の足利持氏に対して、関東管領の上杉氏憲(禪秀)が反乱をおこしたが、鎌倉公方が勝利した。小櫃氏は、禪



『百態の龍』中央の龍

秀派に組した為、禪秀与党は敗北没落し、小櫃氏も上総から離れたという。

③ 其の後、武田氏が進出。特に西上総の真里谷武田氏は久留里城を築き、15世紀、真

自然と歴史の散策会 R5年1月26日(木) 南房総の宮彫り師 初代・後藤義光の作品を巡る旅

青空ながら寒い朝、博物館の駐車場に集まり市のバスで

の出発。館山道を通って館山市の鶴谷八幡宮着。そこで講師の稲垣祥三氏を迎え、早速説明を受けながら拝殿の天井に彫られた義光の代表作『百態

の龍』の緻密さに驚嘆する。後藤義光は、1815年に千倉町で宮大工の家に生まれ江戸末期から明治期に安房地方で活躍した宮彫り師である。彫刻家でもある講師の説明は、的確で新たな発見が多かった。次は人里離れた小網寺だ。今は無住となった寺だが、義光が晩年手がけた本堂の向拝彫刻が大きな龍を中心にとびつしりと彫られていた。忘れられた寺にこんな立派な彫刻があるとは、その後、千倉の潮風王国で昼食をとる。アジフライが旨かつ

里谷信興(のぶきよ)の時代大きく繁栄した。そして本格的な縄張りとなり真里谷城縄張図がスライドで紹介された。然しその真里谷武田氏も内紛により衰退し、入れ替わるように里見氏がこの地域の実権を握った。その里見氏に海を挟んだ北条氏が現れ、当地にも影響が及んだ。

④ 当地での大きな城は姉崎の椎津城、久保田城、蔵波城が海岸沿いに並んでいる。特に姉崎、袖ヶ浦への海沿いの道は『浜道』といって満潮の頃は、海に没して通行不能になり、戦略上この道を抑えることが重要であり、北条・里見で争奪戦が繰り広げられたという。

た。最後の見学地は、圓蔵院住職さんの好意で特別に本堂に入れてもらい欄間の彫刻を堪能する。夕方皆満足した。博物館駐車場でバスを降りた。(古文書いろはの会 小泉康 記)



小網寺(館山市出野尾)にて

1570年北条方の千葉胤富から井田平三郎宛ての書状がスライドで紹介され、北条方から見て、久保田城がいかに重要かがわかった。

⑤ このほか、打越砦、大竹砦、野里竹の腰城などの紹介があった。(受講 事務局 記)

編集後記

友の会・各会では、高齢化や活動体力の減退等で会員離れ等があり、会そのものの維持、対策が問題になっております。そんな中、活動の領域を広げて活性化しようとする会があり紹介します。古文書いろはの会は現在常時10名前後が月2回活動中で、今年のミュージアム・フェスティバルで紐の結び方について紹介しようとして準備中。飾り紐では、願いが叶う叶結び(表側が口の形、裏側が十の形、口に十で叶)や雑誌、本など結び目の緩まない結び方などを実演を通して、子供たちに基本的な結び方を紹介するという。結びは古来、むすび(産霊)に繋がり、産霊(ムスヒ)とは、結び付くことにより神霊の力が生み出されると云われています。

会では今後、崩し字解説と併せ『結び文化』をも学びながら、機会を作り紹介活動を通じて結びの美しさ、楽しさを習得し会の活動の幅を広げて行きたいという。今、各会で活動の活性化、につき試行錯誤・模索がつづいております。(編集担当 今井久明 記)